



天空のドラマから一晩がたち、まだ雲がながる  
夜中の空を、ベールに包まれたような大きな月が  
ゆっくり通り過ぎていきます。

毎夜への刻々変化する風景が、まるで私の内面  
のようだと感じられる時、私が世界を意識する  
ということは、一瞬へ存在たちと出会うことそのもの  
なのだと分かりました。



6月を前に、今年は天空から恵みの雨が与えられる  
月がやってきました。

昨年鉢から植えかえられた藤は、すごい勢いです。  
50年になる年長の藤には、ふかふかのコケが今年はいっぱい付きました。

人生がそれぞれ多様であるように、植物たちもドラマ  
チックです。

青バッチさんたちはいつものように一人ずつのおじぎ草の  
種蒔きの真最中、なつやすみの終りに頃にピンク色の花を  
咲かせてくれることでしょう。

園芸活動でおいもやトマト、キュウリ、カボチャ、オクラ...と、  
たくさんの種類が植えられました。

みんな雨水を受けて、ぴんっと元気です。

子どもたちは、植物のようにじっとしてはいませんが、おひさまの  
光や土や風や雨として働いている力をそのまま受けとめ、  
そこに溶け込んで元気に過しているところは似ているな、と  
思います。



いのちはみんなつながっているのを感じさせてくれます。

アフリカで話されているスワヒリ語のTuko pamoja  
(トコパモジャ)というのは、「離れていても一緒にいるよ」という意味の言葉を「そうです。

Uko wapi? (どこにいるの?)と尋ね耳を澄ましたら、  
あちこちから存在たちの声なき声が、Tuko pamoja!と  
響いているのは気がつくかもしれません。

6月... Tuko pamojaをいっぱい感じられ、先行きが  
見えづらい世界が少し見えてくるといいな、と思います。

今、とても大切な言葉のように思いませんか!/?

